

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4490700038 | | |
| 法人名 | 株式会社ニチイ学館 | | |
| 事業所名 | ニチイケアセンター彦ノ内 | | |
| 所在地 | 津久見市大字津久見783番地 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年4月8日 | 評価結果市町村受理日 | 令和3年6月17日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4490700038-00&PrefCd=44&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人第三者評価機構 |
| 所在地 | 大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府番館 1F |
| 訪問調査日 | 令和3年4月27日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>自由にその人らしく過ごして頂く為に言葉や行動による抑制は一切いたしません。一人一人の主体性を尊重し向き合ったケアを行います。残された力を見出し、真の喜びと自信が持てる生活の実現を目指します。在宅診療医と綿密な連携体制を取っており入居者の急な不調にも迅速に対応し看取りも行う体制があります。機能訓練を実施し生活機能の向上を目指しています。</p> |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>事業所が歩んできた道のりは家族や地域にしっかりと浸透し、利用者優先の考えのもと、職員が同じ方向を目指して邁進しています。理念「自由にその人らしく～」をケアの基本と考え、自由に抑制のない個々を尊重した対応を行うとともに、常に傾聴と共感に努めた支援を行っています。一日の中で「食」に関する希望が多く、好みや食べたい物を聞きメニューに反映し、職員が手作りで提供しています。夜起きている利用者の楽しみとして9時に夜食(水分補給や果物)も提供しており大変喜ばれています。現在コロナ禍により地域交流や外出等が制限される中、レクリエーションや施設内の庭を散歩したり、隣接する畑の、季節の果物や花を見学することで気分転換になり、家族には写真や動画・広報誌で報告する回数を増やし、家族の安心と信頼に繋げています。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事務所に理念を掲示している。 ミーティング時に読み合わせをしている。 その人らしい穏やかな暮らしができるように取り組んでいる。 | 法人理念の7項目をもとに動きやすい事業所理念を作成し掲示しています。ミーティングや日々の業務の中で確認を行い、意識付けに繋げ、何が必要かを見極め、取り組む姿勢を大切に話し合い実践に努めています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地区の盆踊りに参加したり、日々の散歩で近隣の方と顔見知りの関係ができるよう努めている。昨年からコロナ感染防止のため地区行事への参加やボランティアの受け入れは控えている。 | 自治会に加入し、自治会長・民生委員から地域の情報を頂いており、感染対策を行い職員ができる範囲で交流を行っています。近隣の方より果物・野菜の差し入れや、当事業所を災害時に高齢者の避難場所に提供する等協力関係を築いています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議の際に、民生委員や区長の方から独居の方や認知症についての相談を受けている。必要に応じて包括支援センターと情報共有している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1度、運営推進会議で日頃の取り組みやヒヤリハット、事故事例の報告を行う。現在は資料を配布し、各方面からの意見を聞き、実践に活かしている。 | 2ヶ月に1度運営推進会議を実施していましたが現在は中止しています。コロナ感染対策の為、書面での報告となっています。会議構成メンバーに事前の意見を電話やメールで頂き、現状報告とともに意見を掲載した会議録を関係者に送付しています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | コロナ感染防止のため運営推進会議は行っていないが、資料を配布し意見を聞いている。 事故発生時は速やかに報告を行っている。 | 市の担当者とはFAX・メール・電話で連絡を取り、相談・アドバイスを頂いています。運営推進会議録を配布し、ホームの取り組み内容を伝え、指導や情報をケアに反映させています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 年に2度は必ず研修を行っている。 その他、身体拘束に該当するケアが発生していないか、毎月話し合いを行い確認している。 | 身体拘束の内容や弊害及び虐待防止について年2回研修を行い、具体的な検討事例の内容を理解し習熟に努めています。言葉の虐待等は早期に気付けるよう毎月の会議で話し合い、虐待防止に努めており、職員のストレスチェックを行うとともに対策を取っています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 年2回、マニュアルを用いて全職員に高齢者、障がい者に対する虐待防止の研修を行っている | | |

自己評価及び外部評価結果、ニチイケアセンター彦ノ内

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ご家族からの相談や必要性に応じて窓口を紹介している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居の際は十分な説明を行い、可能な限り要望に応えるよう配慮している。制度改正時は、内容について文書を送付、電話等での説明を行い同意を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 年に1度、ご家族へのアンケートを実施し改善につなげている。ご家族からの質問や意見があった場合は直ちに上司に報告・相談し、早急に対応している。 | 利用者には日々の関わりの中で、要望・意見を聞くようにしています。家族には面会や電話・アンケート・運営推進会議で要望・意見を聞き運営に反映させています。面会についての要望が多くリモートや窓越しでの面会をしています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ミーティングで職員が発言する時間を作っている。また、個別の面談の機会を設けて意見を聞いている。 | 管理者は職員が意見を出しやすい雰囲気を作り、会議やミーティング等で意見や提案を聞いていますが必要に応じて個人面談も行っています。職員の事情を聞き勤務調整をしたり、研修計画を立て資格取得に向けた支援を行っています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | ストレスチェックや聞き取りを行い、個別で面談の場を設けて意見を聞いている。資格取得に向けて社内の福利厚生や助成制度などが利用できるよう提案し、向上心を持って働けるよう支援している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 定期的に研修の機会を設けている。また、経験に応じて個別に対応している。外部研修にも参加できるよう情報提供している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 施設部会は現在開催されていないが、市内のグループホームや近隣施設との情報交換に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 普通の何気ない会話を記録に残し、その人のこれまでの生活や思いを把握し職員間で共有するよう努めている。安心して過ごせるよう、できる限り意向を取り込んでいる。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族の思いや要望に沿うよう努めている。 日頃の様子を電話で伝えたり、写真を見ていただくなどして関係づくりを行っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人、家族の意向や希望をよく聞いたうえで、職員が話し合いを行い、ケアの方向性を決めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人ができることを見つけ、食器洗いや洗濯干しを一緒に行っている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 課題となっていることを家族と一緒に考え、本人の気持ちを伝え、できる限り偏りのない支援ができるよう努力している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 昔の話を聞いたり、アルバムを一緒に見たり、同じ地区の利用者同士での会話を楽しんでいただいている。 | アセスメントシートに、馴染みの人や場所・趣味や習慣の情報を聴取し職員で共有し支援に繋げています。コロナ禍により面会・外出が制限される中、職員は利用者が親しい人達を忘れないように、写真を見ながら話題を提供しています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者様の席をバランスよく配置するようにしている。ソファを利用したり、利用者同士が関われる環境作りに努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後もその後の状況を家族に電話して聞き取りをしている。 | | |

自己評価及び外部評価結果、ニチイケアセンター彦ノ内

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 職員が日頃の会話の中で得た情報を記録に残し情報の共有をしている。本人、家族の意向や思いを聞き取りケアプランを作成している。 | 職員は利用者とは会話する中で、困り事・不安・思いや願いを聞き申し送りノートに記録し、情報共有を行っています。意思表示が出来ない利用者には、家族に聞いたり日々の関わりと感覚を大切に、信頼関係を持ち、思いが分かるよう把握に努めています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人や家族にこれまでの生活の様子を聞きとりながら把握するよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日々の様子や変化を観察し、気づいたことは記録に残して共有し、ケアに活かしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族の意向や現状を踏まえたうえで、職員と相談しながら介護計画を作成している。 | 利用者・家族・医療関係者・担当職員等の意見を聴取し、思いに即した介護計画を作成しています。介護計画は3ヶ月毎にモニタリングを実施し、日常支援シート・ケアプラン達成シートにて、毎日チェックし必要時は計画の見直しに繋がっています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の記録やケアプラン実施状況シートを活用している。問題点や気づきを共有し、ケアの方向性や介護計画の見直しを行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 病院受診に同行している。その他、本人、家族の状況により、できる限り柔軟な対応に努めている。コロナ禍で買い物の外出は控えている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 毎年、地域の行事や高校生ボランティアの受け入れを行っているが、現在はコロナ感染防止の為、外部との交流はできていない。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 在宅時からのかかりつけ医を継続できるようにしており、月2回の訪問診療を受けている。訪問歯科診療や他科受診の通院も可能な限り対応しています。 | 本人や家族の希望する、かかりつけ医になっています。定期的な検診を支援され、主治医の先生と連携をとりながら常に適切な医療を受けられるよう対応されています。必要な時は、家族に電話連絡をされ情報の共有に努めています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週に1度、看護師が訪問、情報共有や相談を行い疾患の早期発見と対応に努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時に施設共通の連携シートを用いて情報共有を行っている。入院中も病棟NSやMSWと連携を図り、退院時期や状況の把握に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居の際に重度化した場合の指針について、家族に説明し了解を得ている。主治医、家族、職員と十分に話し合いを行い、可能であれば看取りに取り組んでいる。 | 本人や家族の意向を確認しながら、主治医の先生・施設と常に連携をとりながらその人らしい終末期を迎えられるよう、協力しながら支援に努めています。また、その際の情報も施設全体で共有しその後の支援に繋がっています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時の対応について研修を行っている。コロナ感染者が発生した場合のシュミレーションを行い、冷静に行動できるように訓練している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 火災、地震、水害などを想定した避難訓練を年2回行い、夜間想定も行う。訓練の際は事前に近隣に知らせている。最低3日間分の水や食料の備蓄をしている。 | 定期的な避難訓練を、様々な可能性の状況を想定しながら行われています。コロナ禍の中地域の方の参加が難しい中、いざという時のため、地域の情報等を出来るだけ共有し、適切な指示を受け対策に取り組まれています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | それぞれの人格や性格、認知症状を理解し、周囲との関わり方を考えながら対応している。今、その人ができることを見つけられるような言葉かけや対応に努めている。 | 職員全員で、年1回の研修や日頃から職員会議等で利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮された対応を心掛けています。本人の気持ちを大切に、自己決定しやすい言葉かけや処遇に努めています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 発語が少ない方でも、職員が判断するのではなく、できる限り表情や態度で意思確認をし自己決定できるよう工夫をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 余暇の過ごし方や食事の好みなど、個々に合わせて対応を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 着替えの際に本人に選んでいただく。好みの色や素材など、家族にも協力をお願いしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 米研ぎをしたり、食器拭きや洗い物を楽しみながら職員と一緒にやっている。 | 食事は施設で作られているので、準備と一緒に手伝ってもらったり、日頃の会話から食べたい物を聞き食事の記録を参考にメニューに反映させ、イベント食などで普段とは違った雰囲気楽しんで食事をして頂くなど工夫されています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量、水分量は毎日記録に残し、食事や水分摂取量の変化に気をつけている。主治医に相談し必要に応じて補食を提供している。腎臓病の方にはできる限りカリウム制限を行う。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、声かけや誘導をしている。できる方は自分で行ってもらい、義歯の洗浄など必要に応じて介助を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表から個々の排泄パターンを把握し、その方に合ったタイミングで声かけや誘導を行っている。パットの交換等、自尊心を傷つけないように配慮している。 | 職員全員で、利用者の排泄パターンを確認できる体制が整えられています。こまめに利用者のその時々様子を把握しながら、気持ちよく自然な排泄支援に努めています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分が不足しないよう、本人の好みに合わせた飲み物や、ヨーグルト、ヤクルトなども毎日提供している。毎日体操をし、規則正しい生活が送れるよう支援している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 週に2、3回は入浴している。午前、午後の選択や本人が望まない場合は変更している。男性職員を嫌がる方などは職員を交代するなどしている。 | 一人ひとりのその時の希望やタイミングを大切にしながら、体調等にも配慮された支援に努められています。また、入浴できない利用者には清拭・足浴・シャワー浴・同姓介助等臨機応変に工夫し、快適な入浴ができる支援を行っています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の様子を見て、日中に臥床時間を設けたり、夜間はそれぞれのペースで居室で休んでいただくようにしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個々ファイルに薬情報を綴じ職員が把握できるようにし、内服薬の変更、拒薬への対応等申し送りノートで情報共有を行っている。薬剤師による居宅療養管理を利用している方については、個別に相談している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 園芸や新聞購読等、今までの趣味や生活習慣が継続できるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 近隣で花見をしたり、散歩に行ったりしている。コロナ感染防止のため、家族との外出や買い物行事への参加は控えている。 | コロナ禍の中、ドライブ等の外出は出来ないものの自然豊かな環境の中、天気や体調等に配慮され近所での散歩などの支援に努めています。家族とはリモートでお互いの様子をやり取りされ、様々に工夫されています。 | 外出しにくい環境が続くことが予想されることを踏まえて、新たな支援を検討されています。より良い支援に繋がる事を希望します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 少額のお小遣いを所持している。個人的に買って欲しいものがあれば、自分の財布から出してもらおうようにしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族に電話をかけたい方がいれば意向に沿っている。個人で携帯電話を所持している方もいる。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に合った植物を一緒に育てており、季節感が感じられる装飾も行っている。湿度、温度を測定し過ごしやすい環境に整えている。定期的な消毒など、コロナ感染防止対策を実施している。 | 季節を感じられ、安全・安心に配慮された共用空間づくりをされています。ホールは風通しが良く清潔を保ちながら、特に温湿管理・1日3回の消毒等に注意しコロナ感染対策に取り組まれています。利用者の体調や気持ちを大切に、居心地良く過ごせる工夫を行っています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファでくつろいだり、他フロアの方と行き来して会話を楽しんでいただいている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 在宅で使われていた家具やテレビ、馴染みの食器などを持ってきてもらい、自宅に近い居室作りに努めている。 | コタツ・タンス・イス・ベッド等馴染みの物を持ち込まれ、利用者が早く慣れ、少しでもダメージを減らし、それぞれの方が居心地良く過ごせるよう様々な工夫された居室づくりに取り組まれています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室がわかるよう写真を掲示している。トイレや食事時間の掲示などを活用している。 | | |